

2022. 12. 11 (日) ヨハネ1:6~8

1:6 神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。

1:7 この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。

1:8 彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。

先主日に学んだように、ヨハネの福音書はその初めから、主イエス・キリストの神性(神としてのご性質)について明らかに高らかに語り、証言しています。イエスは〈ことば〉すなわち、心があり、意思があり、知恵があり、理性があり、力があるお方、人格あるお方であること。始まりなく、終わりもない永遠に存在するお方であること。父なる神とは別の位格(人格)のお方であること。しかし同時に、永遠に父なる神と本質が全く同じで一体の神なるお方であること。天地万物、すべてをお造りになった創造主なるお方であること。永遠の〈いのち〉そのものであり〈いのち〉の根源なるお方であること。私たち人間の光、希望、救い主なるお方であること。使徒ヨハネは、このように主イエス・キリストのことを、ことばを尽くして証しし、賛美するのです。

そのような、高らかな神賛美からすると、いわば一転して、本日読んだ6~8節は明らかに、トーンが落ちて見えるように見えます。つまり、永遠の神、栄光ある神、創造主、〈人の光〉であるお方のことに続いて、一被造物に過ぎない〈一人の人〉(6)のこと、〈光ではなかった〉(8)人、つまり〈闇〉の世の中に在る罪ある人間のことを語るのです。

その〈一人の人〉の名は〈ヨハネであった〉(6)。この福音書(の事実上の)記者と考えられている使徒ヨハネと同じ名前なので、ややこしく、混同してしまいそうですが、今日見る〈ヨハネ〉は「バプテスマのヨハネ」と呼ばれるヨハネのことです。そのバプテスマのヨハネが生まれた経緯は、それもまた不思議な特別な神のみわざによることでしたが、ルカの福音書1章の中に詳しく書かれています。しかし、そんなバプテスマのヨハネの生まれについて、使徒ヨハネは次のように短く記すのです。

〈神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった〉(6)。因みに、〈ヨハネ〉はもとはヘブル語で「主は恵み深い(ヨーハーナーン)」という意味です。ルカの福音書によると、常識的には子どもを産むことができない非常に高齢な祭司夫婦(ザカリヤとエリサベツ)に神が特別な恵みによって与えてくださった子だということが分かります。そして更に神はこのヨハネに特別な使命を与えておられたことが記されています。ヨハネの誕生をザカリヤに告げた神の御使いガブリエルはこう言いました。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせませす。彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」(ルカ1:13-17) この御使いの言葉によっても、バプテスマのヨハネのことを〈神から遣わさ

れた)と使徒ヨハネが言った意味がよく分かります。神が、神のことば、御子イエスをこの世にお遣わしになる前に、イエスに先立って、〈来るべきエリヤ〉(マタイ 11:14)としてザカリヤ夫婦の間に生まれさせてこの世にお遣わしになったのがバプテスマのヨハネでした。〈エリヤの霊と力で、主に先立って歩み…不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意)することが、神がバプテスマのヨハネにお与えになった使命でした。その大事な使命を神から与えられてバプテスマのヨハネはこの世に生まれ、荒野で人々の前に現れました。

そのことを使徒ヨハネは〈この人は証しのために来た〉(7)と言います。〈光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。〉と。〈証し〉とは言葉と行いをもってイエスを指し示す「証言」です。バプテスマのヨハネにとっては〈悔い改めのバプテスマ〉(マルコ 1:4)を人々に授け、そして人々に「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。」(ヨハネ 1:29)とイエスを指し示して、人々の目と心をイエスに向けさせることでした。「『私の後に一人の人が来られます。その方は私にまさる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。」(ヨハネ 1:30)とイエスを指し示すことでした。そしてバプテスマのヨハネ自身が、(この世には)ヨハネの後に来られたイエスのみことばに従ってイエスにバプテスマを授けました。そのとき聖霊がイエスの上に降るのを見ました。「それで、この方が神の子であると証しをしているのです。」と証言しました(ヨハネ 1:33)。そのようなバプテスマのヨハネの証言の言葉を聞いて、「それは本当だ」と信じて〈悔い改めのバプテスマ〉を受け、すぐに人々の前に現れる(そして実際現れた)イエスを神の約束の救い主、生ける神の御子キリスト、〈人の光〉、世の光と信じる人に神が罪の赦しをお与えになるのが神のみこころでした。そのような神ご自身のみわざのために、神ご自身のみこころがこの世で行われるために、そうやって神の栄光がこの〈闇〉の世の中で現され、神のみことば、イエス・キリストが崇められ誉め称えられるために、神はご自身の尊いしもべとして、イエスの証言者としてバプテスマのヨハネを、御子イエスに先立って世にお遣わしになったのです。

〈彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。〉(8)と使徒ヨハネは念を押すように言います。バプテスマのヨハネがどれほど奇跡的な生まれ方をし、奇跡的な働きをしたとしても(もちろん、神から使命を受けて生まれた以上、それを果たすのが彼の責任でしたが)、それでも彼もこの福音書の最初で告白され賛美されたお方とは違い、罪ある〈一人の人〉でした。「『私はキリストではありません。…』あの方は盛んになり、私は衰えなければなりません。」とも彼は証言しています(ヨハネ 3:27-30)。そこには「私はあんなことをした、こんなことをした」と自分と他人に言い触らし誇るような姿は少しもありません。バプテスマのヨハネの〈証し〉はまさしく最後にはイエス(のみことばとみわざ)だけが生きて残るような「キリスト証言」でした。なお、彼は領主ヘロデ・アンティパスの不倫の罪を指摘し続けたために捕らえられ、ヘロデの不倫相手から憎まれ、牢獄で殺されました。しかしバプテスマのヨハネが「光について証し」した証言、「キリストについての証し」は今も聖書の中に生きて残っています。そしてその〈証し〉は今の私たちがなすべき〈証し〉として私たちに引き継がれています。

今のこの時代に〈神から遣わされた一人の人〉として、〈ただ光について証しするために来た〉者として歩んで行きたいと願い、光なる主イエスの助けを請い求めます。

